

## ■■冬こそ重点的感染予防■■

新型コロナウイルス感染症がここまで大きな流行となる以前から、冬はインフルエンザの流行期であり、ただでさえ疲労が蓄積しやすい年末に大勢が密集するコミケット会場は、一歩間違えば日本全国を巻き込んだパンデミックの場となりかねないため、感染予防対策の重要性は非常に大きかった。

現在はそれに新型コロナが加わった形となっているだけで、本質的には何も変わっていない。

種類を問わず、ウイルス性感染症をコミケット会場に持ち込まない、会場から持ち帰らないために、1人でも多くの参加者が必要な対策を講じること、それが全てだ。

### ■基本の基本の基本■

現在も感染者数の高止まりが続く新型コロナ、冬がメインシーズンでタイプが異なるウイルスに複数回感染する可能性があるインフルエンザ、食中毒を引き起こすノロやロタなど、ウイルスは人が密集した中では強い感染力を發揮する。それは感染者から出た飛沫や器物を介した接触によって、ウイルスが活性状態にあるうちに他の人の体内に侵入しやすいからだ。この侵入経路を遮断することこそが感染予防対策なのだ。ウイルスを体内に侵入させない、という目的が明確なのですべきことも至ってシンプル。当然誰でも知っていることばかりだが、それを油断せず忘れず継続することが難しい。

なので改めて意識して行うようにしてほしい。それが自分だけではなく、会場で、往復の道中で、帰宅してから、アナタに接触する多くの人みんなを守ることにもつながるのだ。

### ●マスク

飛沫感染防止策として基本の基本であるマスクは、特にインフルエンザウイルスの感染予防効果が高いことで知られている。感染者の口という最大の感染源から飛散するウイルスを含んだ飛沫の勢いを大きく減殺し、飛沫の到達距離を短くする効果がある。非感染者側もマスクを着ければ、自分に飛来した飛沫が口や鼻の内部に接触する可能性をさらに引き下げることができるのだ。簡単に言えば、自分と相手との距離が、実際の何倍も離れているかのように作用し、『ソーシャルディスタンス』という名称で呼ばれた安全距離を得られる効果があるという理屈だ。

感染症には潜伏期間があるものも多く、自覚の無いうちに自分が感染させる側になっていることもあり得る。

交通機関や会場内など、腕を伸ばせば誰かに当たるくらい人と人との距離が近い空間では、マスクを着用するよう心がけるのが、自分にも他者にも優しいスタイルだ。

### ●手指消毒

ウイルスは飛沫によって飛散し、付着した場所でもしばらくは感染力を保っている。そこに触れると手指にウイルスが付着し、その手で口や目などに触れれば自分で自分にウイルスをデリバリーすることになってしまう。

そうしないために、できるだけこまめに手洗いや消毒液、消毒ウェットティッシュなどでしっかり手指を清潔にする習慣をつけておこう。



### ●会場から帰ったら

もしコミケット後に打ち上げや食事をするのなら、その前には会場内で着けていたマスクは廃棄交換し、トイレなどで石鹸を使ってしっかりと手を洗い、可能ならうがいもしてからにしよう。飲食店や商業施設類の多くは入口に手指消毒剤を設置しているので、入店の際に見かけたら忘れずに使用したい。特にスナック菓子やファストフードのポテトやなど、直接手でつまんで口にするものを食べようという時には手洗いは必須だ。

帰宅した際も何よりも先に丁寧な手洗い、うがいをしよう。可能なら着ていた衣服は全て洗濯に回し、そのまま入浴してしまうのが望ましい。

そうすれば身体も清潔になり、会場から持ち帰ってしまったウイルス類を家庭内でばら撒かずに済む。どうぞ、良いお年を！

